

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【北浦和小学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	自ら考え、協働的に学ぶことができる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	ただ話をしたり教え合ったりではなく児童がよりよく考えるために友達の考えを必要とすることを協働と捉え、授業の中に意図的に設定する。そうすることで協働的な学びを通して考えたり表現したりすることができるようにする。【毎単元】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		④結果提供(2月)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	評価(※)	・国語の「集めた情報から抜き出して(引用して)、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しながら書く」問題に課題が見られた。 ・児童質問「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することはできていますか」について、肯定的な回答が8割以上であった。
		↓
結果から考えられる 児童生徒の実態		
・複数の情報から取捨選択し、自分の考えが伝わるように書くことが難しい。 ・多くの児童が、主体的に学習を調整することができている。		

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	評価(※)	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業
		↓
結果から考えられる 児童生徒の実態		

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策について、授業の中に設定し、実施することはできているが、毎単元という観点では達成できていないため。
	B	↓
学力向上策の 見直し		
変更なし		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【北浦和小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	どの学年においても、全教科とも全国平均正答率を上回り、全体的には基礎的・基本的な知識・技能の定着は図れているが個人差が大きい。引き続き「ドリルパーク」等の個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、個別に必要な支援を講じていく必要がある。また、自らの学びを振り返る時間を設定し、次時への学びに生かせるような指導を継続していくとともに、今後も学習内容の反復・習熟への取組を全学年で重点的に行っていきたい。
思考・判断・表現	どの学年においても、全教科とも全国平均正答率を上回っているが、国語では「話すこと・聞くこと」、算数では「数と計算」、理科では「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全ての領域が課題となっている。特に、国語の「話すこと・聞くこと」の正答率が毎年低いことを考えると、今後も意図的な話し合い活動を授業に盛り込んでいく必要があると考えられる。自分の考えや表現方法を深めたり広げたりすることができるような活動を重視していきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> どの教科も全国平均正答率を上回り全体的には基礎基本の定着は図れているが個人差が大きい。 <指導上の課題> 児童が学習内容の反復や習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサブリ」等を活用し、国語では漢字、算数では基本的な計算等の反復や習熟に取り組む。【毎単元】 また、児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次時への学びに生かせるようにする。【毎授業】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語の「話すこと・聞くこと」の正答率が毎年低い傾向にある。 <指導上の課題> 自分の考えや表現方法を深めたり広げたりするための時間が確保されていない。	⇒ 授業の中に意図的に友達との話し合いの活動の場を設定する。その際、活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現しることができるようにする。【毎単元】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	「スタディサブリ」においては毎日の授業と連動させて活用することがなかなかできなかったが、「ドリルパーク」においては日々積極的に活用することができ、漢字や計算等の反復・習熟等に取り組むことが習慣化し自校テストの結果に結びついている。また、自らの学びを振り返る時間の設定についても各単元ごとに実施できた。「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」の質問項目では、肯定的な回答の割合は95%を超えた。
思考・判断・表現	B	授業の中に意図的に友達との話し合いの活動の場を設定することで、自分の考えや表現方法を深めたり広げたりすることができた。また、活動の中に共同編集を位置付けることで、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようになってきた。「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目では、肯定的な回答の割合は95%を超えた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	R7年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R6年度の自校の結果と平均正答率を比較すると、国語が+6.3pt、算数が-8.8ptであった。全国や県と自校の平均正答率を比較すると、どの教科も10pt以上上回っている。国語では特に課題に見られなかったが、算数では「図形」の「意味や性質」、「数と計算」の「分数」、理科では「エネルギー」「粒子」の「金属の性質」、「生命」の「実験道具の使い方」の問題の正答率が低く、それぞれ課題が見られた。
思考・判断・表現	R7年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R6年度の自校の結果と平均正答率を比較すると、国語が-3.6pt、算数が-6.6ptであった。全国や県と自校の平均正答率を比較すると、どの教科も8pt以上上回っている。国語では「書くこと」の「目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」の問題の正答率が低く、算数では「図形」の「複合図形面積の求積」、「データの活用」の「グラフからの読み取り」の問題の正答率が低い。国語、算数ともに昨年度も正答率が低いことから、学校全体の課題であるといえる。理科では「生命」の「差異点や共通点から問題を見いだす」問題の正答率が低く、課題が見られた。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	第3学年～第6学年のどの学年においても、国語、算数、社会、理科の全4教科で市平均を上回る結果となった。算数では「データの活用」の領域で80%を超える正答率であった。反対に課題となったのは、算数では「変化と関係」の領域で60%台、社会では「地理的環境と人々の生活」の領域で60%台、理科では「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全領域で50～60%台の正答率であった。
思考・判断・表現	第3学年～第6学年のどの学年においても、国語、算数、社会、理科の全4教科で市平均を上回る結果となった。社会では「地理的環境と人々の生活」「歴史と人々の生活」の各領域で80%を超える正答率であった。反対に課題となったのは、国語では「話すこと・聞くこと」の領域で50%台、算数では「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の各領域で50～60%台、理科では「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全領域で50%台の正答率であった。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	授業と連動させて「ドリルパーク」や「スタディサブリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことはできている。自らの学びを振り返る時間を設定し次時につながる授業を展開しているが、毎時間実施ができるようマネジメントしていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	自分の考えや表現方法を深めたり広げたりすることができるよう、活動の場や時間を設定しながら日々取り組んでいる。話し合い活動を意図的に授業の中に取り入れることで、学びが深まり思考や表現の幅を広げることにつながっている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【北浦和小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	どの学年においても、全教科とも全国平均正答率を上回り、全体的には基礎的・基本的な知識・技能の定着は図れているが個人差が大きい。引き続き「ドリルパーク」等の個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、個別に必要な支援を講じていく必要がある。また、文章構成を意識した指導について継続していくとともに、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」への取組を全学年で重点的に行っていく。
思考・判断・表現	どの学年においても、全教科とも全国平均正答率を上回っているが、国語では「話すこと・聞くこと」、算数では「数の計算」、理科では「エネルギー」「粒子」が課題となっている。各教科とも、問題の主旨を捉え根拠となる資料を基に自己の考えをまとめる活動を重視していきたい。また教科横断的な視点として図やグラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」など、資料の見方を高めていけるような活動を意図的に盛り込んでいきたい。

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「主語と述語の関係」における正答率が低い。 <指導上の課題> 授業の中で文章構成の理解を深める学習が年間通してできていない。	⇒	「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を授業と連動させて活用することで反復・習熟に取り組むとともに、授業では物語文教材や説明文教材を通して、主語・述語の関係等、文章構成を意識した指導を充実させる。【各単元ごとの実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語では登場人物や作者の心情や情景の読み取り、算数ではグラフや資料の読み取りにおける正答率が毎年低い傾向にある。 <指導上の課題> 国語、算数ともに読み取りを深めるための時間が確保できていない。	⇒	根拠となる部分を引用して自分の考えを書いたり、資料からいろいろな視点で読み取ったりする学習を授業の中に意図的に盛り込み、論理的思考力を育成するために適宜話し合い活動を取り入れ思考や表現の幅を広げる。【各単元ごとの実施】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	「スタディサプリ」においては毎日の授業と連動させて活用することがなかなかできなかったが、「ドリルパーク」においては日々積極的に活用することができ、漢字や計算等の反復・習熟等に取り組むことが習慣化し自校テストの結果に結びついている。また、文章構成を意識した指導についても各単元ごとに実施できた。「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では、肯定的な回答の割合は90%を超えた。
思考・判断・表現	B	根拠となる部分を引用して自分の考えを書いたり、資料からいろいろな視点で読み取ったりする学習を授業の中に意図的に盛り込むことで、個々の考えを深めることができた。また、論理的思考力を育成するための話し合い活動を授業の中に取り入れることで、思考や表現の幅を広げることにつながった。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問事項では、肯定的な回答の割合は95%を超えた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	R6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R5年度の自校の結果と平均正答率を比較すると、国語が+0.1pt、算数が+5.1%であった。国語では、学習指導要領の内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「文の中で正しく漢字を使うことができるか」をみる問題の正答率が低い。昨年度の全国学力・学習状況調査においても、同内容における正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。算数では、特に課題は見られなかった。
思考・判断・表現	R6年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R5年度の自校の結果と平均正答率を比較すると、国語が-0.1pt、算数が-2.7%であった。国語では、学習指導要領の内容「書くこと」の「目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか」の問題の正答率が低い。昨年度においても、同内容における正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。算数では、学習指導要領の内容「図形」「変化と関係」「データの活用」の「立方体の求積」「道のり・速さ・時間の関係」「表やグラフからの読み取り」の問題の正答率が低い。「図形」と「表やグラフの読み取り」については、昨年度も正答率が低いことから、学校全体の課題であるといえる。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	第3学年～第6学年のどの学年においても、国語、算数、社会、理科の全4教科で市平均を上回る結果となった。社会では「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の領域で80%を超える正答率であった。反対に課題となったのは、算数では「数と計算」「図形」の各領域で60%台、理科では「エネルギー」「粒子」の各領域で50%台の正答率であった。
思考・判断・表現	第3学年～第6学年のどの学年においても、国語、算数、社会、理科の全4教科で市平均を上回る結果となった。社会では「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の領域で80%を超える正答率であった。反対に課題となったのは、国語では「話す・聞く」の領域で60%台、算数では「数と計算」の領域で60%台、理科では「エネルギー」「粒子」「地球」の各領域で50%台の正答率であった。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	授業と連動させて「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことはできている。授業の中で文章構成を意識した指導も行っているが、各単元ごとに実施ができるようにマネジメントしていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	自分の考えを根拠となる部分を引用して書いたり、いろいろな視点で資料を読み取る学習は、日々の授業の中で取り組んでいる。また、論理的思考力を育成するための話し合い活動を授業の中に取り入れることで、思考や表現の幅を広げることにつながっている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)